

校番	06	○	ホームルーム活動		生徒会活動		学校行事	別紙様式2
----	----	---	----------	--	-------	--	------	-------

令和4年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立呉三津田高等学校		校長	山田 哲也		生徒指導主事	櫻 佑介	
取組事例名	『チューター活動』							
取組における育てたい資質・能力								
人間関係形成			社会参画			自己実現		
「コミュニケーション能力」	2		「自律性・協働性」	1		「自己理解・自らの自信」	3	
取組のねらい								
<p>(1) 上級生と下級生との間で「縦の繋がり」を持つことで、自律的かつ協働的な学校生活を促す。</p> <p>(2) 生徒自身で協働し問題発見・問題解決を行うことで、安心安全な学校環境の自治を意識させる。</p>								
取組の具体的内容					取組の創意工夫 『キーワード：協働』			
<p>1年生に三津田生としての学校生活について先輩として助言をするメンター(mentor)を2年生から募集し、学期に2回程度、1年生のホームルームで相談・支援を行う。</p> <p>1 実施形態</p> <p>6限終了後約20分間実施する。1年生を4～5人のグループに分け、それぞれに2年生のメンターを1～2人配置する。</p> <p>2 内容</p> <p>学習や部活動、学校行事等の学校生活全般についての不安や悩みについて質問し、メンターは自分の1年生の頃を振り返り、自己開示とともに助言を行う。</p> <p>例：定期考査や模試、授業や小テスト等を含む学習の取り組み方や部活動など学校生活全般に関する質問、学校行事の準備や進め方、長期休暇の過ごし方についての質問などに、自分が1年生のときの経験をもとに助言する。</p>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生のグループとメンターは、数回は同じメンバーで行った後、途中で組み合わせを変えて、異なる先輩から助言を得られるようにする。</li> <li>・メンターには事前に、学年主任と教育相談担当からメンターの在り方や助言の仕方について指導する。</li> <li>・メンターに聴きたいことについて、1年生から事前にアンケートを取り、集約してメンターに伝え、話す内容を準備できるようにする。</li> <li>・実施後、メンターにフィードバックを行い、次の活動に活かせるようにする。</li> </ul>			
取組の成果と課題								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事後アンケートでは、1年生95%、2年生85%の肯定的評価をしている。</li> <li>・学習や学校行事等、学校生活に不安を抱える生徒に対する支援を上級生が行うことで、部活動以外でも、先輩・後輩の縦の関係づくりが可能になり、学年を越えた繋がりを深めることができた。</li> <li>・参加した2年生は、チューター活動を通して自己のコミュニケーション能力を向上させ、後輩の役に立てたことにより自己肯定感を高め、自分に自信を持てるようになってきているように思われる。</li> <li>・1年生は、先輩とのコミュニケーションができるだけでなく、自分が抱えている悩みや不安を共有することで、自分だけでなく他の人たちも同じような思いを持っていることを知り、安心するとともに、クラスのメンバーへの共感理解が深まったという生徒や次年度は自分がメンターに立候補して新1年生の役に立ちたいという思いを持っている生徒も見受けられる。</li> <li>・回を追うごとに1年生も2年生も打ち解けて表情が緩み、もっと聴きたいが時間的制約のために話を切らざるを得ない状況である。メンターの2年生の負担にならない形で、今後も継続して実施したい。</li> </ul>								